

認定こども園・
幼稚園・保育園
事業者の
経営者向け

子どもの特性を“真”に理解し、
子育て世帯を“本気”でサポートしている
皆様“だからこそできる!!”

全ての子どもたち一人一人に、明るい未来と地域へのさらなる
社会貢献を提供することができる仕組みづくり

障がい福祉 事業参入 成功事例公開レポート

学校法人 森学園
理事長 森美佐子氏

児童発達支援事業

放課後等デイサービス事業

成功事例必見
ポイント

- 01 認定こども園を運営する学校法人が児童発達支援・放課後等デイサービス事業を付加して、**今まで以上の社会貢献を実現!**
- 02 本事業への参入を通して障がいを持つ子どもの成長はもちろん**現場職員の人財育成にも成功!**
- 03 利用者確保・人材確保の両面において“既存リソース”の活用で、**早期の事業成功を達成!**



学校法人 森学園様の成功事例レポートを今すぐチェック!

開催日程 2022年5/12(木)・26(木)・6/9(木)・20(月) 13:00~16:00 (ログイン開始12:30~)

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さま、および関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

教育・保育事業者だからできる児発・放課後デイ参入セミナー

お問合せNo: S084533

主催 Fundai Soken E-mail seminar271@funaisoken.co.jp

株式会社 船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研 大阪本社ビル ※お問合せの際は「セミナータイトル・お問合せNO・お客様氏名」を明記のうえ、ご連絡ください

お申込み

今回は保育園・幼稚園・こども園の経営者様に、障がい福祉サービスへの新規参入成功事例をご案内させていただきました。なぜ、障がい福祉サービスなのか？それは保育・教育分野と非常に親和性が強いからです。

日本で少子化が益々深刻化しているのは、保育園・幼稚園・こども園をされている皆様だけでなく、日本に住む誰もが知っている大きな社会的問題であることと思います。しかし、皆様はご存知でしょうか？

『日本で障がいを持つお子様が、年々増え続けている』という現状を。

恐らく日々、保育園・幼稚園・こども園で園児と関わっている皆様でしたら、近頃、障がい対象者のお子様が増えてきていると、肌で感じられている方もおられるのではないのでしょうか。それに伴い、保育士が障がい対象者のお子様に対してどのように保育・教育してよいかわからず困っているという話をよく耳にします。スタッフだけでなく、その保護者様は、自分のこどもの将来について『この子は大丈夫なのか、将来一人で生活していけるのか』と不安に思われている方がほとんどです。

保育園・幼稚園・こども園の運営にとどまらず、障がい福祉事業も同時に行うことで、より深く地域のお子様へ、またその保護者の方、そして現場スタッフの方々、皆様の不安や課題を解決する機会となることと考えております。

今回は幼稚園・こども園をはじめ、後に障がい福祉事業に参入し、実際に地域の皆様の未来を支え続けておられる、**学校法人 森学園様（神奈川県横浜市）**にヒアリングをさせていただくことになりました。このレポートが貴法人の近未来を変える可能性が高いと考えております。

是非、このまま読み進めてくださるようお願いいたします。

学校法人 森学園様が障がい福祉事業を付加し、
地域にとって無くてはならない法人となるに至った成功事例を今すぐチェック

Beans

Jr & Kids



学校法人 森学園様が運営する
児童発達支援・放課後等デイサービス事業所
ビーンズ キッズ&ジュニアサポート

法人概要

法人名：学校法人 森学園

事業類型：幼保連携型認定こども園、未就園児教室、
児童発達支援・放課後等デイサービス事業

理事長：森美佐子氏

エリア：横浜市栄区上之町29-1

沿革：2015年 新制度 幼保連携型認定こども園移行
2021年 児童発達支援・放課後等デイサービス事業
こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニア開設



学校法人 森学園
理事長 森美佐子氏

当時抱えていた課題

元々、学校法人 森学園様では、統合保育という形で障がいをお持ちの子どもと、一般の子どもたちと一緒に受け入れておりました。

必要であれば現場の先生方に研修の受講をしていただき、加配をつけながら他の園で受け入れを断られてしまった子どもたちも、可能な限り受け入れてきておりました。

ただ現実問題、**現場としては一般の子どもたちと一緒に、障がいをお持ちの子どもたちを受け入れるということはかなり大変でした。**

「全ての子どもたちを平等に預かってあげたいが、現場が大変。しかし、現場が大変だからといって、障がいをお持ちの子どもたちの選択肢や居場所がなくなってしまうのはどうなんだろうか？ そういった子どもたちも受け入れてあげるにはどうしたらいいのだろうか？」という葛藤がずっとありました。

また、森様自身、お子様を持つ母親という側面もある中で、そういった子どもたちの保護者の気持ちも理解できるし、現場の気持ちもよくわかる中で、こういった形が森学園としてベストなのか？ という点で大きな悩みを抱えておりました。

参入を決意したきっかけ

そんな中、2012年に**児童発達支援・放課後等デイサービス事業**の制度が誕生しました。

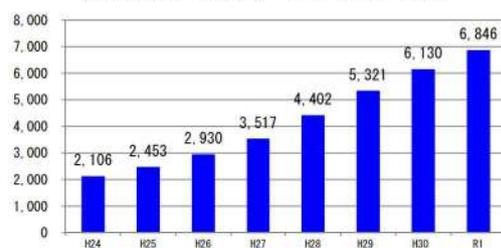
そこから数年で一気に児童発達支援・放課後等デイサービス事業が普及し、地域に福祉が充実していく様子をご自身も子育てをしていく中で目の当たりにしてきました。

様々な事業所を見比べる中で、事業所によって療育プログラム、子どもに対する接し方などに大きな違いがあることに気づきました。

療育を考える上で、子どもたちが将来集団生活をしていく中でどう過ごせたらより幸せになれるのか？ というイメージをもって関わってあげた方が絶対に良いと考えておりました。

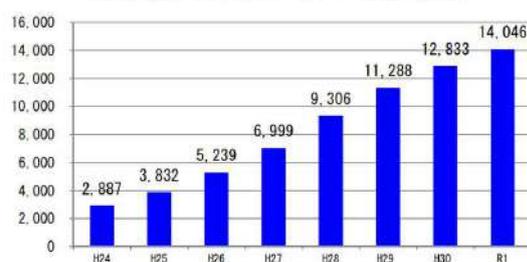
そこで、**幼児期の子どもの育ちや声のかけ方、関わり方、保護者の方々への支援の仕方を熟知している、教育事業者・保育事業者だからこそ、本当に子どもたち・保護者・地域が必要としているものを提供することができると確信して、本事業へ参入しようと決意いたしました。**

事業所数の推移（一月平均（か所））



児童発達支援 事業所数の推移
（出典：厚生労働省）

事業所数の推移（一月平均（か所））



放課後等デイサービス事業 事業所数の推移
（出典：厚生労働省）

事業開始に向けて

事業開始までの準備として大きく、物件・申請・利用者確保・従業員採用があります。

物件については、既存園舎の空きスペースでスタートし、敷地内に新築を整備後、移転をしました。

申請の部分では、財産目録や寄付行為の変更など、学校法人の認可に関する変更届を県に届け出る必要があり、時間がかかりましたので注意が必要です。

事業所のオープンは2月で、**オープン前の12月の終業式に保護者向けの説明会を実施し、体験会に誘導いたしました。**

また、折り込みチラシの配布も行い、集客を実施してまいりました。

保護者同士の口コミや小学校等の関係機関からの紹介もあり、**3月～4月頃には満員を達成することができました。**

従業員採用についてですが、もともと事業を開始する2年ほど前から、勤務経験10年目以上の職員には全員、児童発達支援管理責任者（児発管）の研修を受けるようにしていたこともあり、

最も採用が困難な**児発管は、法人に勤務していた職員を配置することができました。**

その他の人員も基本的に法人の従業員を配置しており、幼稚園の集団行動を理解している方が勤務してくれることで、子どもたちの成長や既存園との連携がスムーズになっております。

利用者確保と従業員確保の面で、教育・保育事業者の皆様の場合は、在園児に見込み客が一定数いらっしゃることで、従業員採用も法人職員を活用できることが大きなメリットになると考えております。



こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニアの建物の様子

療育内容について

現場の先生方と検討を重ねた結果、**運動療育**を中心に展開することとしました。

運動療育に決めた経緯として、もともと幼稚園で行っている体育・体操の理論をベースにしました。

幼稚園で日々体育・体操の理論を勉強しながら、運動プログラムを園で展開しており、その理論は間違っていないと確信しておりましたし、**園で行っている体操プログラムをベースに療育を行った方が子どもたちも混乱しないと考えたからです。**



こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニア運動療育の様子

しかし、療育プログラムは最初から完成していたわけではなく、事業がスタートした後も試行錯誤を繰り返しながら改善を繰り返してきました。

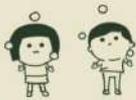
トライアンドエラーを繰り返しながら療育プログラムを組み立ててきたわけですが、子どもたちのゴールを最初からイメージできているので苦労はしませんでした。

既に園で取り組んでいることを療育に活かすことができるという点と、子どもたちのゴールをイメージすることができるという点も、私たち教育・保育事業ならではの強みであると考えております。

20人～30人の集団である幼稚園ではできなかったことがこっちではできる！となるように、子どもたち一人一人の特性を理解して日々療育を行っております。

プログラムの流れ

ビーンズキッズ 幼児クラス(90分)



13:00 準備……… プログラム内容やお約束を確認します。

準備運動…… 学習・ワークや指先を使った遊びのカリキュラム

運動療育…… 運動療育（ライフキネティック・感覚統合運動について）

14:30 終了

感覚統合運動について

感覚統合とは？

私たちの日常は、光や音など様々な刺激に囲まれています。感覚は人それぞれ感じ方の強弱や範囲に差があります。例えば、同じ温度の物を触っても「とても熱い」と感じる人と、「全然熱くない」と感じる人がいるように、全ての感覚は人ひとり異なります。

人間の感覚には慣れがよく知られている5感に加え、日常ではあまり意識することのない、聴覚や嗅覚と前庭覚といった7つの感覚があります。これらの働きによって必要時に注意を向けたり、道具を使いこなす、コミュニケーションをとるといった真摯な状況の把握とそれをもよほした行動ができるようになります。

感覚統合がうまくいかないと、情緒面、対人面、言語面など日常生活の様々な場面で問題となる場合があります。力加減がうまくいかなかったり、落ち着きのない行動は、言葉の理解だけでは修正が難しく、理解されにくいため「黙っている、落ち着きがない子・気になる子」といった見方をされ評価されてしまうことで、さまざまな2次障害が起きてしまうリスクがあります。

幼児期は運動発達と知能発達は並行するといわれています。感覚統合運動では、粗大運動と精緻運動の両方をバランスよく取り入れ、運動機能の発達や手拍行動の発達を促し子どもの知能を育てることを目指します。

こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニア 療育内容 HPより

事業開始後の様子

実際に事業を開始して、**子どもたちに大きな変化がありました。**

具体的には、週に1日しか幼稚園にこれなかった子が、週5日幼稚園に通えるようになったり、職員室に登園していた子がお預かりの時間まで皆といたいと言えるようになったりしました。このような変化を保護者にお伝えすると非常に喜んでくれます。

また、子どもたちだけではなく、**先生たちにも大きな変化がありました。**

幼稚園ではできなかったことができるようになる、という子どもたちの変化を目の当たりにして、本来子ども一人一人はできる力を持っている、ということに気づくことができたようです。

幼稚園の集団の中ではできなかった子どもに対して、どうしてあげればよいか分からなくて先生自身が自分を責めてしまっていました。環境が変わればできるようになる可能性があることが分かったこと、それ自体が先生たちにとっての光になるようです。

そしてそれがモチベーションになり、自信につながり先生自身の成長にもつながっているようです。

障がいをお持ちの子どもたちは、できなかったことができるようになる。

そして、それを目の当たりにした保護者は我が子の成長に安心して子育てに前向きになれる。

また、それに携わった職員も、子どもたちの接し方に自信をつけることができ成長する。

この事業に参入することによって、子どもたち・保護者・従業員すべてにとって非常に良い効果を生み出すことができました。

業界への想い

今回この児童発達支援・放課後等
デイサービス事業に取り組んで、
**法人として大きな経験値を積むことが
できました。**

子どもたちの変化や先生方の変化を含めて、
気づかされること、得ることが非常に
多くありました。

しかし、障がいをお持ちの子どもが通園する
保育園・幼稚園が見つかりづらいケースも
あります。

障がいをお持ちのお子様の保護者は、
困り感があることを隠しながら園探しをしております。その事実は教育者として非常に
つらいものがあります。
子ども自身も言葉に表さないだけで、受け入れてもらっていないことは気づいております。

**そういった子どもたち・保護者のことを自信をもって受け入れる法人が増えてほしいし、
そういった業界になってほしいと心から願っております。**

その想いに賛同してくれる方々には、是非この事業に参入してもらって、一緒によりよい業
界を作り上げていきたいと考えております。



こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニアの様子



こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニアの様子



こども発達支援ビーンズキッズ&ジュニアの様子

ここまでで、学校法人 森学園様の児童発達支援・放課後等デイサービス事業参入までの
ストーリーとその後の成果について、よくご理解いただけたかと思えます。

**また、教育・保育事業の皆様が新たに障がい福祉事業を行うことで得られる
相乗効果の高さや、親和性の高さについてもよくご理解いただけたかと思えます。**

教育保育事業者の皆様**“だからこそ”**本事業に参入することで、
今まで以上の社会貢献と子どもたち一人一人に明るい未来を提示してあげることが
できると確信しております。

次ページ以降で、障がい福祉事業、障がい児通所事業について
弊社船井総研の視点で解説しておりますので是非ご覧ください。

誌上 特別講座

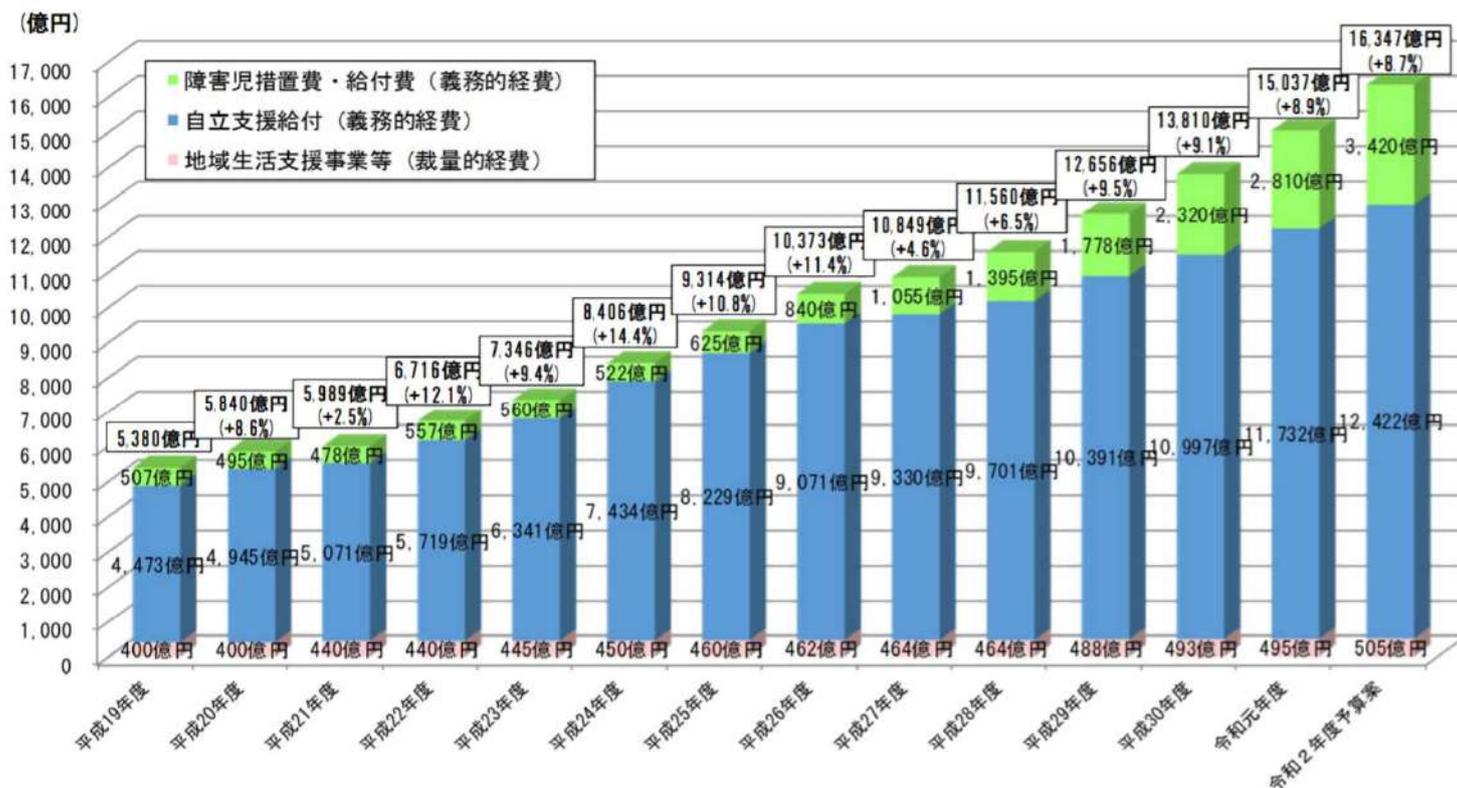
地域の子どもたちにより貢献できる事業 児童発達支援・放課後等デイサービスの 開業のポイント・業界動向を開設

みなさま、こんにちは。株式会社 船井総合研究所 福祉グループの藤澤と申します。弊社は今まで、**150社を超える法人様のお手伝い**を行ってきました。また、保育・教育事業を母体に運営している事業者様の、当該サービスへの参入のサポートも数多く実施させていただいております。コンサルティング現場を通して分かったことの一部をご紹介します。



株式会社 船井総合研究所
保育教育福祉支援部
福祉グループ 藤澤 瑛

障がい福祉業界の現状



（出典）厚生労働省

障がい福祉事業は、入所から就労支援、放課後等デイサービスと多岐にわたっていますが、どの事業も年々事業所数が増加しており、今も増え続けています。上記のグラフにありますように、**障がい福祉サービス予算額は10年間で2倍以上に増加**しています。それだけ障がい福祉サービスのニーズが増大していることを表しています。

また、事業所数が多い児童発達支援・放課後等デイサービスであっても、森学園様のような明確なコンセプトを持っている事業所は少なく、地域のニーズはまだまだ潜在しています。

利用ニーズの増大

事業名	令和2年 (2020年)	令和元年 (2019年)	対前年	
	事業所数	事業所数	増減数	増減率 (%)
児童発達支援	8,849	7,653	1,196	115.63%
放課後等デイサービス	15,519	13,980	1,539	111.01%
居宅介護	23,741	23,098	643	102.78%
重度訪問介護	21,327	20,789	538	102.59%
行動援護	2,628	2,563	65	102.54%
生活介護	8,637	8,268	369	104.46%
短期入所	6,489	6,000	489	108.15%
共同生活援助	9,659	8,643	1,016	111.76%
就労移行支援	3,301	3,399	-98	97.12%
就労継続支援 A 型	3,929	3,860	69	101.79%
就労継続支援 B 型	13,355	12,497	858	106.87%
計画相談支援	10,778	10,255	523	105.10%
障害児相談支援	7,772	7,254	518	107.14%

(出典) 厚生労働省 社会福祉施設等概況

上記は、障がい福祉サービスの主な事業の事業所数推移を記載したものです。福祉サービス全体として事業所数が増加していることがわかります。中でも、児童発達支援・放課後等デイサービス事業の成長率は110%を超え、福祉業界の中でも高い増加率であることがわかります。それだけ特別な支援を求めているお子様・保護者様が増えているということです。

2022年に入ってから日本全国で開所のお手伝いをさせていただいておりますが、年々利用のニーズが増大してきていると感じています。特にただ預かるだけではない「**専門的な療育**」をされている事業所が、非常に評判が良いです。

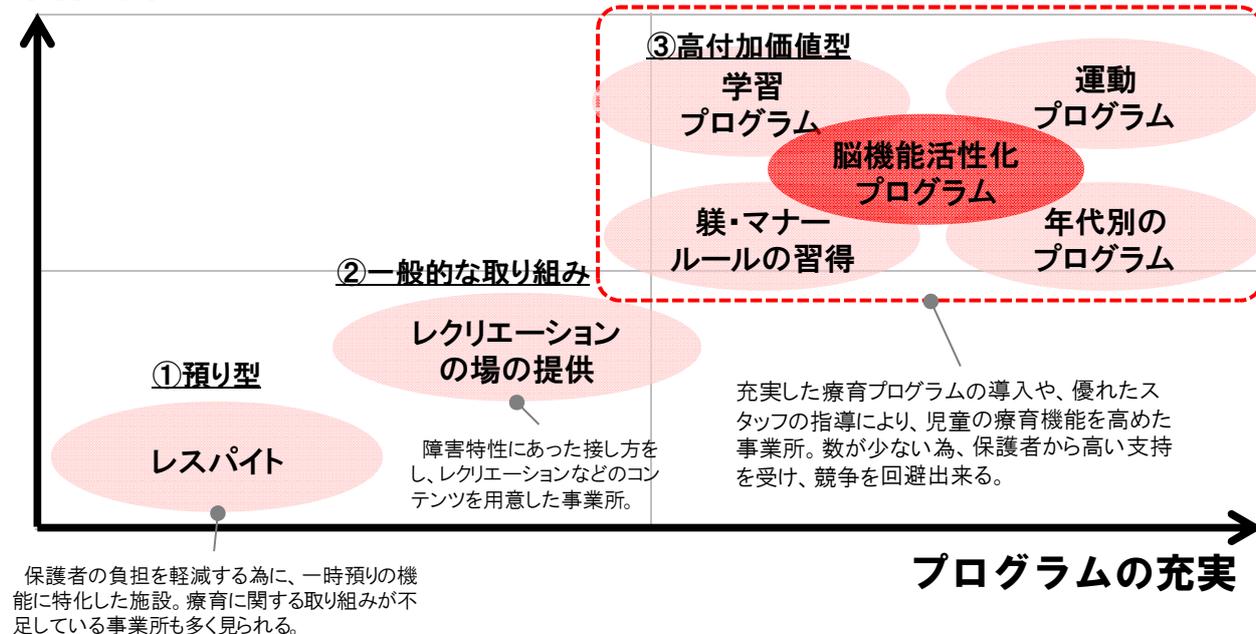
ビジネスモデル概要

商圏人口	15万人
人員配置	正社員3～4名 パート3～4名
施設の大きさ	30坪程度、駐車場あり
利用定員	10名
収益性	売上：3,600万円/年 営業利益：1,200万円/年 営業利益率：33%
単月黒字化	6ヶ月以内
初期投資+ランニング	～1,500万円

求められている療育

成功されている多くの法人で実際に展開されているのは、下図にある③の脳機能活性化プログラムです。一般的な①②の支援モデルよりも、療育効果をしっかり出すことを重きに置いた運営をされているので保護者様からの信頼も厚くなり、地域に必要とされるサービスとなります。他事業所と差別化するという意味でも大きな効果があります。

療育効果 大



保育事業から障がい福祉事業をはじめめる強み

既に保育園・幼稚園・こども園を運営されている皆様は、地域のコミュニティが存在します。既存のネットワークを駆使し、園児の中に含まれる障がい児と保護者が抱える課題の解決に繋がります。また、卒園・小学校入学を機会に離れてしまいがちですが、保育園、幼稚園、こども園で未就学児を、サポート+学童の運営で12歳以下児童のサポート+障がい福祉事業を行うことで、未就学児のみならず、小学生になっても支援ができ、より長く障がい児と保護者の未来を支えることが可能で、発達障がいを抱えるこどもが増えている今、地域の社会問題を解決することができます。

また、保育士の中には、学生時代から障がい児の支援に関わりたかったと考えている方が一定割合いらっしゃいます。少数のお子様到手厚い支援をしたい保育士にとっては、興味が沸く職場となります。発達面に課題があるお子様がいることで、園や学童の運営が整わない職場環境も児童発達支援・放課後等デイサービスに取り組むことで専門的な支援ができ、お子様にとっても保護者様にとっても有意義なサポートが可能になります。

広くお子様の支援をされてきている皆様が障がい福祉の支援をすることでまた一步、地域貢献の幅が広がっていくことは間違いありません。

地域の子どもたちのためによりよい環境を提供したい方必見！
本当に地域に必要とされる児発・放デイの立ち上げ方が分かる！

教育・保育事業者だからできる 児発・放課後デイ参入セミナー

開催日程

2022年 **5**月**12**日^木, **5**月**26**日^木, **6**月**9**日^木, **6**月**20**日^月

時間 13:00~16:00(ログイン開始12:30~)

参加費用 一般価格：16,500円(税込み) / 一名様
会員価格：13,200円(税込み) / 一名様

ここまでお読みいただきありがとうございました。

このレポートでは、児童発達支援・放課後等デイサービスの事例を紹介させていただきました。あなた様のような意欲のある経営者であれば、すぐに実現できるものばかりです。これまでに150社を超える障がい福祉事業に関わってきましたが、サービスの差別化やコンセプト作りに悩まれている企業・法人が非常に多いのが現状です。最短で成功するためには、力を入れるべきポイントに専念してスピード感をもって結果を出すことです。そうすれば保育事業と連携した地域貢献、特別な支援を必要とするお子様のサポート、早期黒字化、そしてスタッフの成長を早期に達成することができます。

今回のセミナーでは、「児童発達支援・放課後等デイサービスの成功」を実現するための方法をお伝えします。

皆様より少し先に事業展開をし、地域にとって無くてはならない存在となっているゲスト講師をお招きし、**たった3時間で児童発達支援・放課後等デイサービスの全てが分かる**ようにセミナープログラムを構成しております。
一見の価値があることは間違いありません。

教育・保育事業者だからできる児発・放課後デイ参入セミナー

開催日程

※全日程とも内容は同じです。ご都合の良い日程をお選びください。

2022年

5月12日(木), 5月26日(木), 6月9日(木), 6月20日(月)

申込期限：5月8日(日)

申込期限：5月22日(日)

申込期限：6月5日(日)

申込期限：6月16日(木)

時間

13:00~16:00(ログイン開始12:30~)

参加費用

一般価格：16,500円(税込み) / 一名様

会員価格：13,200円(税込み) / 一名様

	担当	講座内容
第一講座	株式会社 船井総合研究所 福祉グループ 藤澤 瑛	教育・保育業界で起こっていることと障がい児サービスについて
第二講座	特別ゲスト講師 学校法人 森学園 理事長 森美佐子氏	ゲスト講座 児童発達支援・放課後等デイサービスの 成功事例大公開！
第三講座	株式会社 船井総合研究所 福祉グループ 藤澤 瑛	児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業の 参入ポイントと成功事例
第四講座	株式会社 船井総合研究所 福祉グループ マネージャー 山本 貴大	まとめ講座 本日のまとめ 皆様に取り組んでいただきたいこと

Webのお申込みについて

WEBのお申込み・・・お申込みはQRコードの読み取りが簡単です！

スマホ・タブレットをお持ちの方は右記QRコードを読み込んでいただくとお申込みフォームへアクセスできます。

■本講座はオンライン受講となっております。諸事情により受講いただけない場合がございます。ご了承ください。
※オンラインミーティングツール「zoom」を使用いたします。Zoomご参加方法の詳細は「船井総研 web 参加」で検索
※お申込みに関するよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください

お申込みHPURL

<https://www.funaisoken.co.jp/seminar/084533>

Tel:0120-964-000 (平日：9:30~17:30)

